

論 文 要 旨

学籍番号	80834512	氏 名	稲垣 康一
論文題目： グローバル企業のソフトウェア開発におけるオフショアリング先の評価			
(内容の要旨)			
<p>近年、日本のソフトウェア開発において海外で行うことを意味する「オフショアリング」の活用が進んでおり、その実施の8割が中国に偏重している。しかし企業の海外進出に伴い、ソフトウェアを利用する拠点は世界各地に広がり、かつ開発拠点と利用拠点の連携を必要としている。</p> <p>本研究の目的は、グローバル企業で利用されるビジネス系、受注ソフトウェアの開発におけるオフショアリング先の評価を行い、「ソフトウェア開発のグローバル最適調達システム」をデザインすることである。特に、ソフトウェアの利用拠点近くで行う、オフショアリングの有効性を明らかにする。</p> <p>まず、現在行われているオフショアリングの分析と、専門家へのインタビュー調査を行い、「オフショアリング成功度モデル」を開発した。成功要因の因果関係を明確にし、係数を決定するために、コンジョイント分析を実施、それぞれ算出された係数はコミュニケーション頻度 0.286、言語能力 0.644、仕様の明確さ 0.549、納期の切迫度 0.534 となり、コミュニケーション頻度に効用があることが確認できた。</p> <p>次に、コミュニケーション頻度を地理・時差の要因と仮定して、「オフショアリング国評価モデル」を開発した。候補国の属性の水準値と、統括会社と地域会社で利用されるソフトウェアのオフショアリング先での開発比率を入力して、オフショアリング国の評価を行った。結果、オフショアリング先として、フィリピン、インド、エジプトの3カ国を提案した。</p> <p>最後に、工程分業と地域分業、管理系ソフトウェア、業務系ソフトウェアの視点を入れ、「ソフトウェア開発のグローバル最適調達システム」のデザインを提示した。</p> <p>キーワード：オフショアリング、ソフトウェア開発、ニアショアリング、 コンジョイント分析、グローバル企業</p>			